

岩手県災害派遣福祉チーム員 登録研修

岩手県災害派遣福祉チーム員登録研修が6月24～25日、矢巾町のケアセンター南で開催されました。研修にはチーム員30名余が参加。大規模災害が発生したと想定し、それぞれの局面でどのように対応するかなどを学習しました。

シミュレーション訓練ではリーダー、サブリーダーを中心に、災害時の行動などについて活発な意見交換がなされ、発災時の初動対応や出動に際してのオリエンテーション等を再現していました。

また、チーム員が災害対策本部職員と折衝する場面や要配慮者に対応する訓練は、臨場感あふれるものでした。

参加者からは「活動には様々な



市対策本部折衝訓練



岩手県災害派遣福祉チームとは

岩手県災害福祉広域支援推進機構（本部長：達増拓也岩手県知事。事務局：岩手県社会福祉協議会）が派遣主体。大規模災害の際、現地に派遣され、避難所等で福祉の支援を実施する。東日本大震災を機に民間主導で立ち上げられた全国でも先駆的な組織。所定の研修を修了したチーム登録員の中から、1チーム4～6名で編成される。

発災直後から発生する福祉的課題にいち早く介入することにより、2次的被害（症状の重体化、災害関連死など）の発生を防ぎ、避難状況下においても良好な生活環境を確保するための被災者支援体制の充実を図る。

平成28年には熊本地震（熊本県益城町）や本県の台風10号災害（岩泉町）に初めて派遣された。社会福祉士、介護福祉士、保育士など、現在のチーム登録者数は298名となっている。

配慮が必要。現地の関係者と情報共有を密にして実践に取り組みたい」「決断するのは難しいが、その場で素早い判断ができるようになる

りたい」「コーディネート・連携の必要性・重要性を感じた。活動の際は意識しなければならぬ」「避難所の状況に合わせて、柔軟に支援できるよう協力し合いたい」「災害派遣福祉チーム員が力を出し合い、適切な支援をしていきたい」など、実践を意識した多くの感想が寄せられました。

岩手県災害派遣福祉チームは大規模災害が発生した場合の避難所における要配慮者支援を想定し、今後も定期的に研修を実施していきます。

岩手県災害派遣福祉チームは、大規模災害が発生した場合の避難所における要配慮者支援を想定し、今後も定期的に研修を実施していきます。

車いすの寄贈を通じてアジア諸国との国際交流

いわて 車いす フレンズ

車いす整備技術
講習会

平成29年度いわて車いすフレンズ車いす整備技術講習会を6月29日、ふれあいランド

岩手で開催しました。この活動は工業高校生が古くなったたり壊れて使用できなくなった車いすを修理・整備して、東南アジアを中心とした海外に贈る活動です。

全国的には「空飛ぶ車いす活動」として、24都道府県で実施されているものです。

当日は、県内でこの活動に取り組んでいる9校のうち7校から、学生や教員30余名が参加しました。

まず、東南アジア諸国では日本のように道路が整備されているところが少なく、道路事情の悪い中で車いすが使用されるケースが多いことや、現地で車いすは高価で購入できる方が限られるため、車いすの寄贈は大



変喜ばれていることが、神奈川工科大学の学生から説明されました。

修理作業では、「空飛ぶ車いす」活動の中心的な学校の1つである神奈川工科大学の梅原直人さんや武藤英里さんなどの指導のもと、車いすの修理やノーパンクタイヤへの交換作業を行いました。

参加者は「慣れない作業で難しかったが、人助けになるので嬉しい」と話していました。

日本から車いすを搬送する際に使用する梱包材も現地では貴重品です。修理した車いすは丁寧に梱包され、運送業者に引き渡されました。

今回、修理・整備した車いすは17台で、他の地域で修理・整備した車いすとともに、東南アジア諸国に贈られます。

障がい者と農家の新しい絆づくり 農福連携がスタート

農業分野の障がい者就労（農福連携）が注目されています。特定非営利活動法人日本セルフセンターが2013年に実施したアンケートによると、回答のあった全国の障害者福祉施設の3割が「農業活動に取り組んでいる」という結果が出ています。

障がい者の仕事づくりと農業の担い手づくりは、困りごとと困りごとを組み合わせることで、ともに解決していこうという取組です。

近年は農作物の生産だけでなく、加工、販売、商品の開発など地域をベースに事業展開され、障がいのある方一人ひとりの個性を活かせる活躍の場が作り出されています。

本県でも農福連携がスタートしました。障がい者と農家の垣根を低くし、お互いが理解できる環境づくりが農福連携という新しい絆につながる。そんな取組が広がっていくことが期待できます。これから本格化する本県の取組を、今後も皆様にお伝えする予定です。

2017 ボランティア体験 in いわて

(体験期間は7月1日～10月31日)



「ボランティア体験 in いわて」は、子どもから大人まで、誰もが気軽にボランティア活動を体験する機会をつくり、ボランティアへの理解を深め、参加促進を目指し実施しています。親子で体験できるプログラムもあります。

ボランティア体験プログラムの内容や申込みについては、岩手県社会福祉協議会ボランティア市民・活動センターのホームページ「ずっばりボランティアいわて」をご覧ください。

大きな発見とたくさんの笑顔に会える
ボランティア活動を体験してみませんか

●お問い合わせ

地域福祉企画部

ボランティア市民・活動センター

☎019-637-4483

E-mail: vc-1@iwate-shakyo.or.jp

HP <http://iwate-volunteer.jp>

くまもとから感謝をプロジェクト！ for 岩手県災害派遣福祉チーム



平成28年4月14日に発災し、大きな被害をもたらした熊本地震。熊本県（蒲島郁夫知事）は同年11月から「くまもとから感謝をプロジェクト！」を実施。「くまモン」が全国各地を訪問し、支援してくれた方々に感謝の気持ちなどを伝えています。

「くまモン」隊（熊本県職員ら）は8月28日に岩手県入り。29日にふれあいランド岩手を訪れ、岩手県災害派遣福祉チームのメンバーらと対面しました。「くまモン」は長山岩手県社会福祉協議会会長と名刺交換し、復興支援感謝の色紙を贈呈。岩手県災害派遣福祉チームにお礼のサイン入りポストカードをプレゼントして、復興支援御礼の「ハグ」。記念写真を撮影し「くまもとへの支援ありがとうだモン!」「くまもとは元気だモン!」とチームのメンバーらに伝えました。また会場の皆さんに「くまモン体操」を披露。「ハグ」「写真撮影」にも応じ、交流を深めました。

「くまモン」隊は、岩手県内数か所を訪問し帰県。今後も熊本支援に携わった方々を全国各地に訪ね、「感謝」「熊本復興」などを伝えていく予定です。



岩手県災害派遣福祉チームの活動

平成28年4月28日に熊本県入りし、被害の大きかった益城町の交流情報センターを拠点に活動。高齢者・障がい者・乳幼児など配慮が必要な方々のニーズの存在を確認。熊本県災害派遣福祉チームと協働し、福祉ニーズの把握や応急的支援に取り組んだほか、益城町交流情報センター内の避難住民へのアセスメント（情報を収集し分析、解決すべき課題を把握）を実施し、アセスメント表や要配慮者マップをデータ整理して、関係者で情報を共有する体制を構築。また「相談どころさしより（現地の方で「とりあえず」を設置し、住民の自立に向けたサポートを行い、5月18日に京都府災害派遣福祉チームに活動を引き継ぎ帰県した。



コンニチワ!

高齢者・障がい者 なんでも110番
開催のご案内

日時：平成29年11月8日(水) 13時～17時

場所：岩手県福祉総合相談センター 3階

電話：019-625-0110（相談無料／来所・電話どちらもOK）